

いいまちづくり 観音寺輝き隊通信

令和四年 十二月 一日 発行

文責：大西
編集：白川

「琴弾公園ヒストリー」③①

《宮本秋四郎》その2

琴弾公園の大鳥居がある入り口から奥へ進むと**宮本秋四郎の銅像**が建っています。宮本秋四郎は観音寺町長として数々の偉業を成し遂げましたが、中でも観音寺港の建設は長年の町民の願い

観音寺鳥瞰図（昭和5）



であり最も大きな業績と言えます。江戸時代初期頃から今の裁判所付近に「洲の内」という『堪浦（たんぼ）』〈船だまり〉を漁港として利用していました。堪浦の近くに常夜灯があり夜間観音寺港の位置を示していました。

◆公園清掃日について◆

今月の清掃日は**12月5日**です。

午前八時～九時（雨天・12月12日）

琴弾公園の池付近に集合
みんなでいい汗を流しましょう。

※問い合わせ 080-3211-1962



「琴弾公園クイズ」④①

琴弾公園内の琴弾山は観音寺駅からどれくらい距離があるでしょうか？

- ① 1・5キロメートル
- ② 2キロメートル
- ③ 2・5キロメートル



この常夜灯はその後移動し、現在**琴弾山の高灯籠**になっています。新居浜を起点とした住友汽船が寄港として阪神方面に貨物客を運んでいました。200トンもの船は海上遠くに投錨し、堪浦からそこまで小さな船で運ばれていました。干潮時には荷物を背に着物の裾をからげて陸地まで渡らなくてはならず大変でした。毎年台風が訪れると、すぐそこまで帰ってきた漁業者が（港が不備なために）難破するということが多く、港の建設は町民の悲願でした。（つづく）

◆いいまちづくり観音寺輝き隊◆

私たちは「琴弾公園の魅力高めめること」を主な目的にしている小さな団体です。歴史的名物を見直し郷土愛を高め、まちをもっと元気にしようと頑張っています。

ライトアップされた天空の高灯籠！

琴弾山の高灯籠がライトアップされた夜、近くで見ようと訪れた方が高灯籠と眼下に広がる夜景の美しさに思わず口にした言葉は「これぞ、天空の高灯籠！」確かに歴史書には『ここからは財田川やまちの全景、遠く三豊平野をへて四国山脈が望め、さらに雄大な燧灘（ひうちなだ）、伊予路、石鎚の連山が眺められる。』とあります。10月28日の四国新聞に「観音寺・琴弾山の高灯籠、住民の声で明かり再び」の見出しで高灯籠について掲載されました。新聞の宣伝効果は大きく、はるばる高松や丸亀など遠方からご来訪いただいた方もあり、感動を分かち合いました。歴史的景観が復活した日となりました。



『輝き隊通信バックナンバー』と検索または下のQRコードからこの通信のバックナンバーを見ることが出来ます。また観音寺市のホームページからも輝き隊通信は閲覧できます。

